

シニアがスマホを持った理由 男性「使いたい機能」女性「家族の勧め」が1位

～スマホを持った理由を分析した結果、最も関係したのは「性別」だった～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

- 調査結果1 : シニアのスマホ保有のきっかけ
- 調査結果2 : スマホ保有と関係する事項
- 調査結果3 : 性年代別にみたスマホ保有の理由
- 調査結果4 : 所有時期とスマホ保有理由の変化

■ 調査結果

1ー シニアのスマホ所有理由「能動的」「受動的」半々に分かれる

我々の調査では、2017年1月時点でシニアの36%がスマホを所有していたが、どのようなきっかけで所有したか調査した。その結果、最も多い理由は「使いたい機能があった」次いで、「まわりの勧め」「ガラケーが使えなくなった」と続いた。これを「能動的」「受動的」に大別すると、大よそ半々に分かれた(図1)。

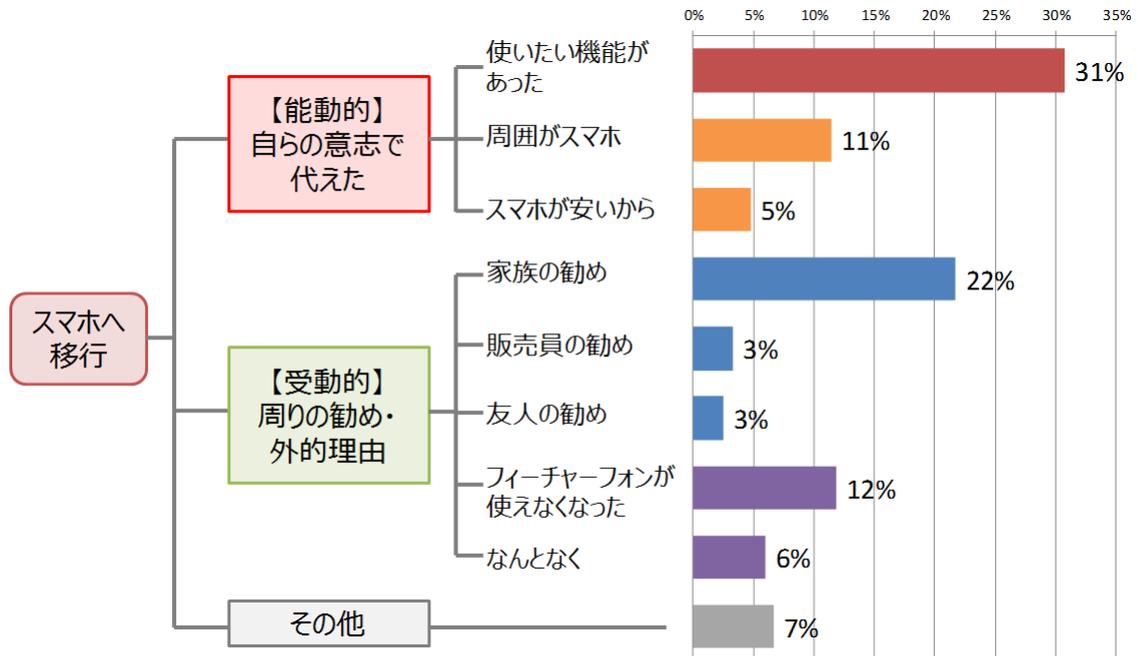


図1 スマホ所有した理由

2 — スマホを所有する理由と関連が最も強いのは「性別」

それでは何が関係して「能動的」「受動的」に分かれたか、統計的手法で分析した結果、最も強く関係していたのは「性別」であった(図2)。



図2 スマホ所有理由との関連

※1) 全体と合わせるか、否か 2) 直ぐに行動に移すか、否か

3 ——— 男性は「使いたい機能」女性は「家族からの勧め」

性別に所有したきっかけを見ると、違いは明らかで男性は「使いたい機能があった」女性は「家族からの勧めがあった」の構成比が高い。その一方、年代による差異は小さい(図3)。

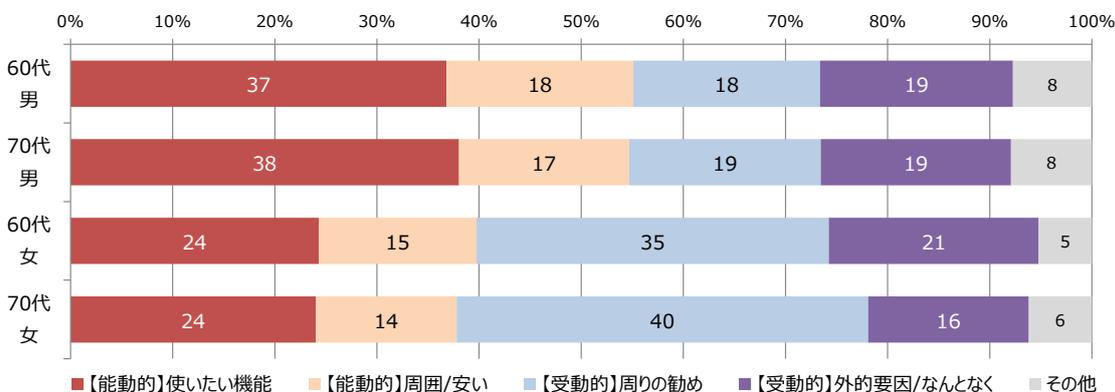


図3 性年代別スマホ所有理由

4 ——— 購入時期により、スマホ所有理由が変わる

もう少し別の観点から、考察してみる。所有した時期ときっかけを、時系列的観点からみると、「使いたい機能があった」が下がり、「フィーチャーフォンが壊れた・安い」「周囲がスマホを持っている」が増えている(図4)。

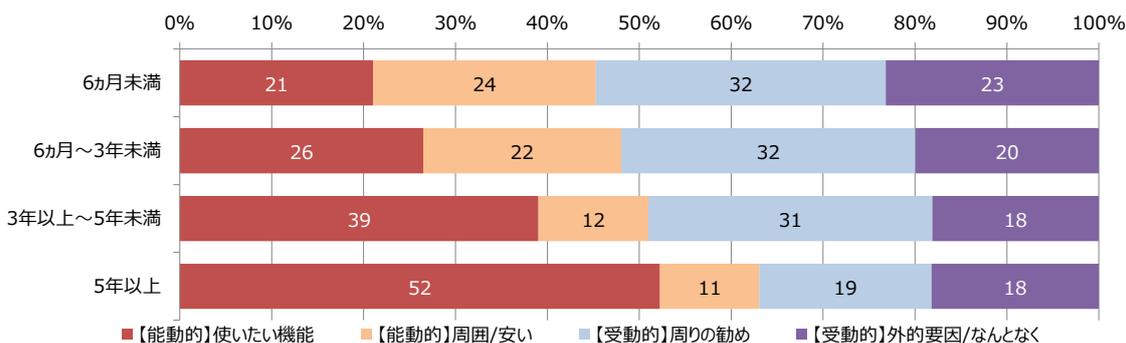


図4 購入時期とスマホ所有理由

今回の調査より、シニアが所有するきっかけは「性別」の違いによる影響を最も受けていることが判明した。今後は、所有後どのようにして使いこなせるようになったかを分析する。

■調査概要(調査名 シニア調査 訪問留置調査)

調査時期 : 2017年3月 調査対象 : 全国、60～79歳男女

標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住エリアで割付 2,936 サンプル回収

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com